

指導計画

◇=(おおむね満足できる状況) (十分満足)=(十分に満足できる状況)

過程	○主な学習活動	時・形態	学習への支援	評価規準		
				国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語に関する知識・理解・技能
気付く・見直し1	○聞き手として読み聞かせを聞く。 ○語り手を交えて話し合いをする。 ○再度、読み語りを聞く。 ○自己評価	1 全体	・読み聞かせを聞きやれ、会場作り。 ・聞き手の思いを実感することが、読み手を目指して読み深める初めであることを説明する。 ・生徒を3班編成し(講師3名)、質疑や応答の回数を増やせるようにする。 ・質疑・応答の司会を指導者(T・T2名)が行い、生徒の発言内容を「本の内容」「読み手に関して」「聞き手について」に整理しながら行う。生徒の発言に対する賞賛の言葉掛けを語り手に依頼しておく(意欲の高揚のため)。	◇読み聞かせを聞き、感想を表現したり質問をしたりしている。 (十分満足)とするキーワード ・集中して、楽しみながら ・「本の内容」「読み手」「聞き手」の話題を整理しながら ・読み手となる目標をもって (努力を要する状況)への方策 ・次の場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。 ・発表・質問については、ワークシート記述と合わせて個別指導する。	◇読み聞かせを聞き、作品の主題や筆者の思いを自分なりに聞き取っている。 (十分満足)とするキーワード ・筆者の考え方にも触れながら ・自分のものの見方・考え方を広げながら (努力を要する状況)への方策 ・印象深い場面が思い出せばよいと助言し、その場面を確認し自分なりに聞いていたことを認める。	◇読み聞かせ聞き、語感の豊かさを感じた語句を指摘できる。 (十分満足)とするキーワード ・音声の工夫についても自分なりに気付くことができる。 (努力を要する状況)への方策 ・印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことにより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする。
	○読み語りの聞き手を決め、自らが読みたい本を選択し準備をする。	適宜	・図書館より団体貸し出しを受け、早くから本を教室に配備する。 ・本の選定の目安は、園児・小学校低学年とする。 ・聞き手と本の選定については、単元に入る前に予告しておき1校時を経て最終決定をするように促す。 ・聞き手希望の状況を整理する。今回は園児対象として希望をとる指導者が相手先と折衝する。個別発表を希望する生徒には、実現可能か個々に確認する。	◇読み語りたい相手を自分で決め、聞き手を意識して読み語り用の本を選択、準備する。 (十分満足)とするキーワード ・聞き手の状況を考えてながら ・読みたい本と読み手の状況を関連させながら (努力を要する状況)への方策 ・聞き手としての感想を思い浮かべ、読み語りで自分が感じた思いを再度確認する。その後、本を一冊一冊読み紹介をし、紹介をし、紹介をしながら	◇語感を大切にしたい語句を2、3カ所見つけることができる。 (十分満足)とするキーワード ・大切にしたい語句を、速さ、強弱、声音などを工夫しながら ・語句の前後を関連させながら (努力を要する状況)への方策 ・指導者が具体的な語句を数種類の音読を示し、イメージや語感の違いに気付くようにしていく。	
深める・見直し2	○自分の想像力を生かして一人読みを構成する。 ○自己評価	1 個別	・内容理解では自分の受けとめ方を大切にしよう助言する。 ・この一人読みの段階で、聞き手に伝えたい思いを、読み方も含めてメモするように指示する(今後の活動後に変更しても可) → 思いや読み方に特に関連すると思う部分をプリントに書き抜く。 ・前半は音読の形で読み、後半は音読の形で読む。	◇自分一人の読みを大切にしたい読み込みようとしている(含他者の読みを知りたい思いの増加)。 (十分満足)とするキーワード ・一人読みの時間を生かし、自分の読みたい部分の時間をかけながら (努力を要する状況)への方策 ・活動1の内容を想起し、印象深いところはどこかを考え、読み始めの手掛かりをつかめるようにする。	◇筆者の意図を考え、自分なりに主な内容を読み取る。 (十分満足)とするキーワード ・場面構成に留意しながら ・登場人物の関係や性格に留意しながら (努力を要する状況)への方策 ・(関)の(努力を要する状況)への方策と同じ方法を取り、気付いた言葉や場面から主な内容を考えられるようにする。	◇【深め観点①(内容・表現・語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めている。 (十分満足)とするキーワード ・友人の視点やイメージの相違を知ったことによる読みの変容を大切にしながら ・友人の語調や音読の工夫から気付いた読みの変容を大切にしながら (努力を要する状況)への方策 ・内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言ってみて、その違いを説明し合うことで読みの相違を読み手の広がりとしてとえられるようにする。
	○前時の読みを基に互いの読みを交流し合う。 ○互いに読み合った点を話し合う。 ○自己評価	1 班	・読み語りの目的を踏まえた班編成を行えるよう、班分けの条件、班分けの意図や方針のプリント作成し、早くに生徒に提示しておく。また、条件を踏まえた班編成の相談・助言にあたる。 ・読み語りの目的がわかり、交流の観点をもてるように、プリントを提示する。共通点も相違点も共に価値あるものであることを説明し、前向きに話し合えるようにする。 ・後半は音読して上記の内容を確かめ合えるようにする。	◇友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている。 (十分満足)とするキーワード ・うなづきや相づちを打ちながら聞いたり、同意を求めたりしながら ・読み相違の理由を考えるために表現に戻り、文の前後を関連させながら (努力を要する状況)への方策 ・聞き手は多様な受け取りをするものだとことを知らせ、だからこそ自分の思いを大切にしたい読みが重要であることを伝え、活動の意欲化を図る。	◇【深め観点②(内容・表現・語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めている。 (十分満足)とするキーワード ・友人の視点やイメージの相違を知ったことによる読みの変容を大切にしながら ・友人の語調や音読の工夫から気付いた読みの変容を大切にしながら (努力を要する状況)への方策 ・内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言ってみて、その違いを説明し合うことで読みの相違を読み手の広がりとしてとえられるようにする。	◇【深め観点②(内容・表現・語感)】に留意して本を音読できる。 (十分満足)とするキーワード ・聞きやすいように工夫して ・思いを伝える意欲をもって (努力を要する状況)への方策 ・聞きやすさの観点で振り返り最も大切にしたい表現の仕方を具体的に考えられるようにする。
まとめる・見直し3	○交流後の読みを再構成し読み手として自分の思いをまとめ上げる。 ○表現課題に留意し班で練習する。 ○自己評価	1 個別	・活動全体を振り返り再度一人で読みとめる主旨を説明する。 ・深まった自分の読みを観点にそってまとめるよう促す。「まとめ観点①(一人読みから変容し補充された内容の中核)」「まとめ観点②①を伝えるための自分の表現課題は」 ・音読練習では、園児の様子を借り、園児とのつながりを自覚できるようにする。また、友人の課題について、工夫点や努力を賞賛できるように聞き、改善点も補足し合うよう促す。 ・自己評価では個々の思考の流れと意欲を関連させて行う。自信や意欲が自覚できたからこそ生まれた課題も生徒が言い表せる評価項目を工夫する。	◇読みまとめ(課題設定・自己評価)の活動を通して、読みを深めてきたことに自分なりの自信を感じとれている。 (十分満足)とするキーワード ・読み語り活動全体を振り返りながら ・内容の中核と表現課題とを関連させていくことで ・自信をもつことで発表に向けて意欲を増している。 (努力を要する状況)への方策 ・具体的な表現を例にとり、自分の読み方の工夫や配慮が、聞き手を大切にしたい読みの深まり(変容)であることを知らせて、読み深めの自信を感じられるようにする。	◇【まとめ観点①(内容の中核)】にそって読みの再構成し、自分の読みをまとめ上げている。 (十分満足)とするキーワード ・読み語りの根拠にして ・読みの広がりや深まりを踏まえて自分なりに読みの軽重を図ったり、取捨選択をしながら ・自分で設定する表現課題と関連させて (努力を要する状況)への方策 ・本の選択→一人読み→相互読みの授業記録や自分の思いを振り返らせながら、「今の自分にとって内容の中核は何か」を口頭で言い、読みの変容を確認しやすくしていく。	◇【まとめ観点②(表現課題)】に留意しながら自分で中心的な表現課題を設定できる。また、具体的な部分で工夫しながら読み表そうとしている。 (十分満足)とするキーワード ・「どこを、聞き手が〜できるように、〜していきたい」の表現課題形式を説明しながら ・自分でまとめた内容の中核と関連させて、作品全体に一貫性をもって (努力を要する状況)への方策 ・「どこを、聞き手が〜できるように、〜していきたい」の表現課題形式を利用し、個々に相談活動をしながらか自分の言葉で記入できるようにする。
	○読み深めを生かした読み語り(園児)を前にして行う。 ○自己評価	2 全体	・読み語り環境を相手先と協力して整えておく。 ・読み語りしてきた自信の基に聞き手を大切にしたい読み語りとなるように助言する。また、聞き手の反応をできる限り受け入れ、コミュニケーションをとるよう助言する。 ・聞き手時は、読み手聞き手双方を観察するようにする。 ・発表の感想・自己評価は講義後に行い、園児の反応を参考にしながら助言する。個々の発表の場をもつ生徒は実践レポート形式に聞き手の感想を記入してもらい本人の自信につなげるようにする。	◇相手に声が届くように読み語りを行っている。 (十分満足)とするキーワード ・挨拶を元気づけて ・一番後ろの人にも届く声で、園児のほうに視線を配りながら ・園児の反応に丁寧しながら ・聞き手と本の世界を共有しながら (努力を要する状況)への方策 ・園児の反応や視線に留意し、受け答えなどをしながら、思いがけ届く読みになるように助言する。	◇自分でまとめた読みを読み語ることによって理解を深めている。 (十分満足)とするキーワード ・自分の音読の声を聞くことで、理解を一層深めながら ・自分でまとめた読みの中心、及び表現課題に留意しながら (努力を要する状況)への方策 ・読み語り時には声掛けをしない。読み語りを実際に行ってみて、園児の反応のよさや反応場面・文言などを振り返ることで、読みの深まりを自覚できるようにする。(努力を要する状況)の生徒には、個別指導で支援する。	◇自分の表現課題に留意しながら、園児の前で音読できる。 (十分満足)とするキーワード ・「どこを、聞き手が〜できるように、〜していきたい」の表現課題部分を特に留意して「読む速度、音量、語調、間」と、作品内容・場面との効果を考えながら (努力を要する状況)への方策 ・後ろで聞いている班員が「声が小さい・速すぎ」と判断した際はジェスチャーで読み手に示し、中盤後半には自分の意図通りの読みになるようにする。

4 指導計画

◇=(おおむね満足できる状況) (十分満足)=(十分に満足できる状況)

過程	○主な学習活動	時・形態	学習への支援			評価規準	
			学 習	評 価	規 準	読 む こと	言語に関する知識・理解・技能
気付く・見直し1	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き手として読み聞かせを聞く。 ○語り手を交えて話し合いをする。 ○再度、読み語りを聞く。 ○自己評価 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせを聞きやれ会場作り。 ・聞き手の思いを実感することが、読み手を目指して読み深める初めであることを説明する。 ・生徒を3班編成し(講師3名、質疑や応答の回数を増やせるようにする。 ・質疑・応答の司会を指導者(T T 2名)が行い、生徒の発言内容を「本の内容」「読み手」に関して「聞き手について」に整理しながら行う。生徒の発言に対する賞賛の言葉掛けを語り手に依頼しておく(意欲の高揚のため)。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇読み聞かせを聞き、感想を発表したり質問をしたりしている。 (十分満足)とするキーワード ・「本の内容」「読み手」「聞き手」の話題を整理しながら ・読み手となる目標をもって (努力を要する状況)への方策 ・次の場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。 ・発表・質問については、ワークシート記述と合わせ個別指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇読み聞かせを聞き、作品の主題や筆者の思いを自分なりに聞き取っている。 (十分満足)とするキーワード ・筆者の考え方にも触れながら ・自分のものの見方・考え方を広げながら (努力を要する状況)への方策 ・印象深い場面が思い出せばよいと助言し、その場面を確認し自分なりに聞いていたことを認める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇読み聞かせ聞き、語感の豊かさを感じた語句を指摘できる。 (十分満足)とするキーワード ・音声の工夫についても自分なりに気付くことができる。 (努力を要する状況)への方策 ・印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする。 	
深める・見直し2	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の読みを基に互いの読みを交流し合う。 ○互いに読み合っけて気付いた点を話し合う。 ○自己評価 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・読み語りの目的を踏まえた班編成を行えるよう、班分けの条件、班分けの意図や方針のプリント作成し、早くに生徒に提示しておく。また、条件を踏まえた班編成のパターンを用意しておき、班編成の相談・助言にあたる。 ・読みの交流の目的がわかり、交流の観点をもてるように、プリントを提示する。共通点も相違点も共に価値あるものであることを説明し、前向きに話し合えるようにする。 ・後半は音読して上記の内容を確かめ合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている。 (十分満足)とするキーワード ・うなづきや相づちを打ちながら聞いたり、同意を求めたりしながら ・読み相違の理由を考えるために表現に戻り、文の前後を関連させながら (努力を要する状況)への方策 ・聞き手は多様な受け取りをするものだという事を知らせ、だからこそ自分の思いを大切にした読みが重要であることを伝え、活動の意欲化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇【深め観点(内容・表現・語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めている。 (十分満足)とするキーワード ・友人の視点やイメージの相違を知ったことによる読みの変容を大切にしながら ・友人の語調や音読の工夫から気付いた読みの変容を大切にしながら (努力を要する状況)への方策 ・内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言ってみて、その違いを説明し合うことで読みの相違を読みの広がりとしてとらえられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇【深め観点(声量・語感・間・速度)】に留意して本を音読できる。 (十分満足)とするキーワード ・聞きやすいように工夫して ・思いを伝える意欲をもって (努力を要する状況)への方策 ・聞きやすさの観点で振り返り最も大切にしたい表現の仕方を具体的に考えられるようにする。 	
まとめる・見直し3	<ul style="list-style-type: none"> ○交流後の読みを再構成し読み手としての自分の思いをまとめ上げる。 ○表現課題に留意し班で練習する。 ○自己評価 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動全体を振り返り再度一人で読みまとめる主旨を説明する。 ・深まった自分の読みを観点にそってまとめるよう促す。「まとめ観点①一人読みから変容し補充された内容の中核は」「まとめ観点②①を伝えるための自分の表現課題は」 ・音読練習では、園児の椅子を借り、園児とのつながりを自覚できるようにする。また、友人の課題について、工夫点や努力を賞賛できるように聞き、改善点も補足し合うよう促す。 ・自己評価では個々の思考の流れと意欲を関連させて行う。自信や意欲が自覚できたからこそ生まれた課題も生徒が言い表せる評価項目を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇読みまとめ(課題設定・自己評価)の活動を通して、読みを深めてきたことに自分なりの自信を感じとれている。 (十分満足)とするキーワード ・読み語り活動全体を振り返りながら ・内容の中核と表現課題とを関連させていくことで ・自信をもつことで発表に向けて意欲を増している。 (努力を要する状況)への方策 ・具体的な表現を例にとり、自分の読み方の工夫や配慮が、聞き手を大切にした読みの深まり(変容)であることを知らせて、読み深めの自信を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇【まとめ観点①(内容の中核)】にそって読みの再構成し、自分の読みをまとめ上げている。 (十分満足)とするキーワード ・授業記録や友人・講師の助言を根拠にして ・読みの広がりや深まりを踏まえて ・自分なりに読みの軽重を図ったり、取捨選択をしながら ・自分で設定する表現課題と関連させて (努力を要する状況)への方策 ・本の選択→一人読み→相互読みの授業記録や自分の思いを振り返らせながら、「今の自分にとって内容の中核は何か」を口頭で言い、読みの変容を確認しやすくしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇【まとめ観点②(表現課題)】に留意しながら自分为中心的な表現課題を設定できる。また、具体的な部分で工夫しながら読み表そうとしている。 (十分満足)とするキーワード ・「どこを、聞き手が～できるように、～していきたい」の表現課題設定形式を利用しながら ・自分でまとめた内容の中核と関連させて、作品全体に一貫性をもって (努力を要する状況)への方策 ・「どこを、聞き手が～できるように、～していきたい」の表現課題形式を利用し、個々に相談活動をしながらか自分の言葉で記入できるようにする。 	

「聞き手の想定・本の選択」「一人読み」「読み語りの発表」部分は省略(資料集に記載)

4 指導計画

◇=(おおむね満足できる状況) (十分満足)=(十分に満足できる状況)

過程	○主な学習活動	時・形態	学習への支援	評価規準		
				国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語に関する知識・理解・技能
気付く・見直し1	○聞き手として読み聞かせを聞く。 ○語り手を交えて話し合いをする。 ○再度、読み語りを聞く。 ○自己評価	1 全体	・読み聞かせを聞きやすい会場作り。 ・聞き手の思いを実感することが、読み手を目指して読み深める初めであることを説明する。 ・生徒を3班編成し(講師3名)、質疑や応答の回数を増やすようにする。 ・質疑・応答の司会を指導者(TT2名)が行い、生徒の発言内容を「本の内容」「読み手」に関して「聞き手について」に整理しながら行う。生徒の発言に対する賞賛の言葉掛けを語り手に依頼しておく(意欲の高揚のため)。	◇読み聞かせを聞き、感想を發表したり質問をしたりしている。 (十分満足)とするキーワード ・集中して、楽しみながら「本の内容」「読み手」「聞き手」の話題を整理しながら ・読み手となる目標をもって (努力を要する状況)への方策 ・次の場面を想像したり、講師がどんな思いで作品を読んでいるのかを考えながら聞くように助言する。 ・発表・質問については、ワークシート記述と合わせ個別指導する。	◇読み聞かせを聞き、作品の主題や筆者の思いを自分なりに開き取っている。 (十分満足)とするキーワード ・筆者の考え方にも触れながら ・自分のものの見方・考え方を広げながら (努力を要する状況)への方策 ・印象深い場面が思い出せばよいと助言し、その場面を確認し自分なりに開いていたことを認める。	◇読み聞かせ聞き、語感の豊かさを感じた語句を指摘できる。 (十分満足)とするキーワード ・音声の工夫についても自分なりに気付くことができる。 (努力を要する状況)への方策 ・印象に残っている言葉を想起し、なぜ記憶に残るのかを考えるよう助言する。そのことより、同じ言葉でも一人一人によって受け止め方が違うことに自ら気付けるようにする。
深める・見直し2	○前時の読みを基に互いの読みを交流し合う。 ○互いに読み合っただけ付いた点を話し合う。 ○自己評価	1 班	・読み語りの目的を踏まえた班編成を行えるよう、班分けの条件、班分けの意図や方針のプリント作成し、早くに生徒に提示しておく。また、条件を踏まえた班編成のパターンを用意しておく、班編成の相談・助言にあたる。 ・読みの交流の目的がわかり、交流の観点をもてるように、プリントを提示する。共通点も相違点も共に価値あるものであることを説明し、前向きに話し合えるようにする。 ・後半は音読して上記の内容を確かめ合えるようにする。	◇友達に質問したり、友達の質問に対して自分の考えや思いを伝えようとしている。 (十分満足)とするキーワード ・うなづきや相づちを打ちながら聞いたり、同意を求めたりしながら ・読み相違の理由を考えるために表現に戻り、文の前後を関連させながら (努力を要する状況)への方策 ・聞き手は多様な受け取りをするものだという事を知らせ、だからこそ自分の思いを大切にしたい読みが重要であることを伝え、活動の意欲化を図る。	◇【深め観点(内容・表現・語感)】にそって、自分なりに読みを広げたり深めている。 (十分満足)とするキーワード ・友人の視点やイメージの相違を知ったことによる読みの変容を大切にしながら ・友人の語調や音読の工夫から気付いた読みの変容を大切にしながら (努力を要する状況)への方策 ・内容の中心、好きな表現部分とその理由を一言で言ってみて、その違いを説明し合うことで読みの相違を讀みの広がりとしてとらえられるようにする。	◇【深め観点(声量・語感・間・速度)】に留意して本を音読できる。 (十分満足)とするキーワード ・聞きやすいように工夫して ・思いを伝える意欲をもって (努力を要する状況)への方策 ・聞きやすさの観点で振り返り最も大切な表現の仕方を具体的に考えられるようにする。
まとめる・見直し3	○交流後の読みを再構成し読み手としての自分の思いをまとめ上げる。 ○表現課題に留意し班で練習する。 ○自己評価	1 個別 班	・活動全体を振り返り再度一人で読みまとめる主旨を説明する。 ・深まった自分の読みを観点にそってまとめるよう促す。「まとめ観点①一人読みから変容し補充された内容の中核は」「まとめ観点②」を伝えるための自分の表現課題は」 ・音読練習では、園児の椅子を借り、園児とのつながりを自覚できるようにする。また、友人の課題こみて、工夫や努力を賞賛できるように聞き、改善点も補足し合うよう促す。 ・自己評価では個々の思考の流れと意欲を関連させて行う。自信や意欲が自覚できたからこそ生まれた課題も生徒が言い表せる評価項目を工夫する。	◇読みまとめ(課題設定・自己評価)の活動を通して、読みを深めてきたことに自分なりの自信を感じとれている。 (十分満足)とするキーワード ・読み語り活動全体を振り返りながら ・内容の中核と表現課題とを関連させていくことで ・自信をもつことで発表に向けて意欲を増している。 (努力を要する状況)への方策 ・具体的な表現を例にとり、自分の読み方の工夫や配慮が、聞き手を大切にした読みの深まり(変容)であることを知らせて、読み深めの自信を感じられるようにする。	◇【まとめ観点①(内容の中核)】にそって読みの再構成し、自分の読みをまとめ上げている。 (十分満足)とするキーワード ・授業記録や友人・講師の助言を根拠にして ・読みの広がりや深まりを踏まえて ・自分なりに読みの軽重を図ったり、取捨選択をしながら ・自分で設定する表現課題と関連させて (努力を要する状況)への方策 ・本の選択→一人読み→相互読みの授業記録や自分の思いを振り返らせながら、「今の自分にとって内容の中核は何か」を口頭で言い、読みの変容を確認しやすくしていく。	◇【まとめ観点②(表現課題)】に留意しながら自分为中心的な表現課題を設定できる。また、具体的な部分で工夫しながら読み表そうとしている。 (十分満足)とするキーワード ・「どこを、聞き手が～できるように、～していきたい」の表現課題設定形式を利用しながら ・自分でまとめた内容の中核と関連させて、作品全体に一貫性をもって (努力を要する状況)への方策 ・「どこを、聞き手が～できるように、～していきたい」の表現課題形式を利用し、個々に相談活動しながら自分の言葉で記入できるようにする。

「聞き手の想定・本の選択」「一人読み」「読み語りの発表」部分は省略(資料集に記載)